「次世代としての責任と使命」

すべての人にやさしい医療・介護を

羽生田だより

令和5年9月発行

34号

羽生田たかし国会事務所
〒100-8962
東京都千代田区永田町 2−1−1
参議院議員会館319号室
TEL:03-3581-3111（代表）
FAX:03-6551-0319

羽生田たかし群馬事務所
〒371-0022
群馬県前橋市千代田町 2−10−13
TEL:027-289-8680 FAX:027-289-8681

ごあいさつ

平素より私の政治活動にご理解とご支援を頂き、心より御礼申し上げます。

令和4年8月12日に厚生労働副大臣を拝命し、早一年が過ぎました。

これもひとえに、お支え頂いております皆様からのご厚情の賜と感謝の念が絶えません。

この一年、加藤勝信厚生労働大臣と共に重要な厚生労働行政に係わる様々な職務に当たって参りました。副大臣公務により全国を回る回数が減ったことは残念でありますが、皆様から頂いた医療現場の切実な声を、すぐさま大臣そして官邸へ繋ぐことが出来たのではないかと思いますが、ただ決定権者ではないため、その全ての声に十分に応える事が出来ない事をもどかしく感じています。

医療現場において必要な事や、地域医療を守る為に優先すべき医療者の声とは裏腹に、政府は財政そして経済優先の対策をとることがあります。コロナ対応などはまさに最たるものであります。献身的な医療者によって現場が支えられた事がないがしろにされ、今回の診療報酬改定では高齢化による自然増しか認めないかのような発信がなされています。

あれだけ自分の生活を顧みず最前線で戦った医療者の心身の支えをすることなく、削減ありき、抑制ありきの財政論が繰り返されています。

財務省はコロナで過分な財源を確保し、十分過ぎる予算を入れたと言っていますが、本当にそうでしょうか。医療は小泉改革以降、抑制と削減に苦しめられ崖っぷちで踏ん張っていました。

そしてコロナによって大打撃を受け医療従事者に十分な給与も払えず、さらには過重な勤務をお願いせざるをえませんでした。ワクチン接種に発熱外来、そして通常の医療に感染対策など、どれだけ医療者が疲弊をしながらも踏ん張っていたか。

このままでは地域医療は守れません。政府が給与アップを政策として進めていますが、この流れは医療界にも必要であります。また物価高騰による医療材料の値上がりや、原油価格の高騰もずっと続いており、経営を圧迫し続けています。控除外消費税においても重量感は増すばかりです。このままでは医療現場で働く人がいなくなり、地域医療を支えてゆけなくなります。

引き続き私も与えられた責任と使命を全うし、このトリプル改定に向かって参ります。

今こそ医師としての
使命と責任を

厚生労働副大臣
参議院議員
羽生田 俊

活動の記録

厚生労働委員会にて副大臣として答弁

ウングボILO事務局長との意見交換

建設現場の安全パトロール
（全国安全週間を契機とした取組の一環）

北海道医師会松家会長と

北海道　長瀬清先生受章記念にて

岐阜県医師会伊在井会長と

南伊勢町上村町長と

若者雇用支援（まぐろ養殖場）視察

三重県医師会二井会長・伊勢地区医師会橋上会長・南伊勢町上村町長・小林孝一郎先生

東京都医師会尾崎会長・日医角田副会長と

埼玉県医師会金井会長・日医松本会長と

松野官房長官・日医松本会長と

日本血管外科学会にて講演

日本眼科医会白根会長から要望

加藤厚生労働大臣・日医松本会長
・星参議院議員と

香川県医師会久米川会長・日医松本会長と

岡山県医師会松山会長・日医黒瀬常任理事
・小林孝一郎先生と

宮崎県医師会河野会長と

長崎市医師会松元会長と

長崎県医師会森崎会長・日医松本会長
・自見参議院議員と

長崎県医師会森崎会長・虎島県議会議員と

【 羽生田たかし国会事務所 】
〒100-8962
東京都千代田区永田町2-1-1
参議院議員会館319号室
TEL:03-6550-0319
FAX:03-6551-0319

【 羽生田たかし群馬事務所 】
〒371-0022
群馬県前橋市千代田町2-10-13
TEL:027-289-8680
FAX:027-289-8681

WEB通信配信中
アドレス登録は
こちらから

羽生田たかしオフィシャルサイト▶
https://www.hanyuda-t.jp/
羽生田たかし　検索
公式アカウント▶@hanyuda_takashi
メール▶mail@takashi-hanyuda.com

オフィシャルサイト

次世代の育成こそが地域医療を守る

厚生労働大臣室にて加藤厚労大臣を囲んで

羽生田　今回は厚生労働大臣で、私たち医療者の支えであり、年末に決定するトリプル改定を医療の代表として取り組んで頂く加藤勝信厚生労働大臣と、その地元岡山県医師会の松山正春会長、そして医師であり、元岡山県議会議員で現在、日本医師会の未来ビジョン委員会委員である若手医師の代表として小林孝一郎先生と対談させて頂くこととなりました。

加藤厚労大臣におかれましては多岐にわたる厚労行政に真摯に向かい合い、各業界・各団体の声にも耳を傾けておられる姿に側で見ていて感銘を受けております。

加藤厚労大臣　羽生田先生には厚労副大臣として、私の支えとなり懸命に職務に向かわれていることに感謝申し上げます。医師の働き方改革など山積する諸課題に共に取り組んでいます。

また、松山正春会長におかれましては私の地元岡山県の医師会代表として、通常の医療だけでなく、未知の感染症とされたコロナ感染症に向かい合い、行政と共に歩んで頂きました。多くの医療関係者に感謝を申し上げます。

そして小林孝一郎さんは、岡山の県議会議員として活躍されるとともに、医療現場に立ち続け、そこでの思いを国政にぶつけていきたいと今、地道な活動を続けておられます。松山会長・羽生田先生がこの若き青年を支えて頂き、また、日本医師会の委員会活動の場を作って頂いていることに、改めて感謝を申し上げます。

小林さんは、皆さんの期待にしっかりと応えてくれるものと確信しています。

加藤勝信 厚生労働大臣

松山会長　加藤厚労大臣は、岡山県民にとっては頼りがいがあり、今後もさらなる高みが期待される政治家であります。大臣には、羽生田副大臣ともども、日本の医療について現場の実情をお話しさせていただき、経営状況の改善、コロナ対策などご無理なお願いをさせていただいています。今回のコロナについては、岡山県の〝かかりつけ医〟をはじめとする医師会の先生方には、ご自分のできる範囲でコロナと対峙していただき、何とかコロナとの戦いに勝つことができました。私は、県医師会長として会員を〝誇り〟に思っています。

小林孝一郎君も県医師会員の一人として、忙しい日常診療の中でＰＣＲ検査、ワクチン接種等に出務いただきました。岡山県では小林孝一郎君を中心とした〝若手医師の会〟が活発に活動しています。岡山県医師会の組織強化にも貢献していただいています。小林孝一郎君のような若い医師に今後の日本を牽引して欲しいですね。

松山正春 岡山県医師会 会長

小林医師　諸先輩方から過分な言葉を頂き、恐縮しております。

誤解を恐れず申し上げると、私のような若いと言われる医師は、やはり日常の診療と向かいあうのが精一杯で、キャリアというか経験を積み、研鑽として新しい知識を学びながら日々、目の前の患者と向き合っています。そして、当然ですが、若手医師はそれぞれ家庭での生活もあり、子どもを育てていかねばなりません。その上、さらに医師会などで地域医療の活動や多くの会議があり、ましてや私のように政治活動をするというのは大変な困難を極めます。

幸い、私は松山正春会長のご理解や加藤大臣・羽生田副大臣が本当に手を差し延べて下さり、支えて頂ける機会に恵まれたので今がありますが、多くの若手医師が将来の不安や、日々の診療や医師会活動でもっとこうして欲しいこと等があっても、それをどこにぶつければいいのか、分からないことが少なくないと感じています。

現在、日本医師会の未来ビジョン委員会では、同世代の方々と喧々諤々の議論を重ねています。機会があれば、是非、加藤大臣にもご参加頂ければ、メンバーは張り合いが出ると思います。自分の声を聞いてもらえるという事は本当に大きな力になります。

若手医師の声を受け止める

小林孝一郎 医師（前岡山県議会議員）

羽生田　小林孝一郎先生の話を聞いて初心を思い返しました。私も長きにわたり日本医師会役員として関わって参りました、確かに未来ビジョン委員会での議論というのは荒削りではありますが、現場の声であると感じます。医師会活動や地域の役員を長く務めた上での発言というのは大変重みがあります。

しかし、一方で、荒削りであれ若い世代の医師の声は、今後、地域医療を支える次世代の声でもあります。この声を上げる力も大切ですし、この声を聞く力も先人の先生方には持って欲しいと感じますし、私自身もこの声を受け止めていかなければならないと感じています。

そうでなければこの国の地域医療はもたないと思います。

加藤厚労大臣　日本医師会をはじめ地域医師会の活動の幅広さ、また、取り組みの深さを感じます。地域医療に懸命に取り組む姿をいろいろな場面で見させて頂きますが、それだけでなく小林孝一郎さんのような若手医師を皆で支え育てていこうとする意気込みや、松山会長・羽生田先生のように、それを先頭に立って実践されている方がいることに感心しております。

次の世代を育てていかなければ地域医療は守れません。この地域を支えていかねばならないという自負が、そうした取り組みを支えているのですね。

この日本の社会に合った、それぞれの地域に合った医療の提供体制を築き、守っていかなければならないと決意を新たにいたしました。

また医療は、平時だけでなく、コロナのような感染症のパンデミック時や、災害時の対応が求められます。地元岡山でも数年前に倉敷市の真備町をはじめ、大変大きな浸水被害に見舞われ、その際に多くの方からご支援を頂きました。中でも医療面での対応は急務でありました。医療が再開されなければ地域で暮らしていくことが困難となってしまいます。地域医療を守ることは暮らしを守ることでもあります。

医療現場の皆様が働きやすい環境を整備し、持続可能な医療提供体制を構築していくことが、国民の健康と生命を守ることに繋がっていきます。

羽生田俊 厚生労働副大臣

松山会長　小林孝一郎君も今回のような機会をいただき、さらに情熱が燃え上っているのではないでしょうか。私も、地域での診療や医師会活動を経て、現在、医師会長という責を担っておりますが、経験は積めても、時間は取り戻せません。小林君の情熱と推進力をうらやましく感します。私にできることは、次世代を担う医師が発言しやすい環境をつくることだと思います。そして、医師会の先生方には、平時は地域の〝かかりつけ医〟として、粛々との日常診療に励んでいただいていますが、東日本大震災や西日本豪雨災害、コロナ等がいったん事が起こりますと、自分を犠牲にしてでも救援活動及び公衆衛生活動に取り組んでいただき、医師としての使命を果たしていただいています。小林孝一郎君も、私たちと共に戦っていただいていますが、今後は、さらに深く医師会活動に取り組んでいただくと同時に、岡山県会議員の経験を生かし、尽きることのない情熱をもって国民、県民の医療に邁進していただくことを期待します。

小林医師　東日本大震災や西日本豪雨災害では、日本医師会災害医療チームが現地で活動し、新型コロナ禍では、地域の若手医師からベテラン医師まで本当に多くの医師がコロナ対応に奔走しました。国民の命と健康を守るために、医師は医療人としての誇りを持ち、昼夜を問わず、また自己犠牲をいとわず、目の前に迫る危機に全力を尽くしました。自然災害をはじめとする、いかなる危機に対してもしなやかに対応できるよう、これまでの対応で得た教訓を今後に生かしていきます。

少子高齢化が進展し、社会保障関係費が増大するわが国において、医師は介護や予防、保健、生活支援など地域の実情や変化する社会ニーズを把握し、広い視野で医療を提供することが求められる時代になりました。医療は政治や行政とこれまで以上に密接に関わるようになっており、各地域で提供される医療が将来にわたり持続可能なものとなるよう、先生方にご指導を頂きながら、現場の声を今後も政治に届けていきます。

私は、医師会活動を通じて、社会医学の視点と将来につながる交流の機会を頂いています。私のもとには、若手医師から「これからの日本を背負う世代が声をあげ、わが事として、制度をつくる政治と向き合っていこう」という意見が届いています。全国を見渡すと、各地で若手医師が既存の枠にとらわれない取り組みを進めています。

政治の世界も、次世代を担う医療者と国民が手を取り合い、真に必要な医療制度を創っていく必要があると感じます。若手医師の代表として、これからも人と社会に貢献し、未来を創る医師としての挑戦を続けていきます。

羽生田　話は本当に尽きませんが、時間の都合もあり今回はこれで締めたいと存じます。

小林先生のような若い医師が現場と向き合いながら政治にも関心をもち共に活動してくれることは大変貴重であります。私もしっかりと後人の育成に努めなければと痛感しました。加藤厚労大臣におかれましては、私共医療界の代弁者として、このトリプル改定を乗り切って、医療界に光を、そして手を差し伸べて頂きますよう切にお願い申し上げます。

そして私達も努力いたしますが、是非、小林孝一郎先生のような若手医師の育成にもご尽力頂きますよう、重ねてお願い申し上げて結びと致します。